



第4会場●4F 大研修室

■司 会／塩山 浩人 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事
大城喜江子 NPO法人なはまちづくりネット

分科会の進め方

10:45~10:50

1 「放課後子ども教室ボランティア指導者」の養成とネットワークづくり—防府市における学社連携への取組— 10:50~11:20

木原 英樹（山口県防府市教育委員会 派遣社会教育主事）

事業は2つの目標を同時進行させてきた。ひとつは「放課後子ども教室」に関わる指導者やボランティアの養成とネットワークづくり、他のひとつは市内全小中学校に「生涯学習（地域活動）担当教職員」を配置する事である。体験型養成講座によりボランティアの人数が増加し、参加者のネットワークが形成され、意欲も向上している。一方、学校教職員の担当・配置を明確化した研修を通して、教職員の意識が変化し、公民館との連携、人材バンクの成立、地域教材の開発などの成果が出ている。

2 全町30の自治公民館で展開した「夏休みきらめき学習」の子ども支援と異世代交流 11:25~11:55

貞荊えり子（福岡県広川町教育委員会生涯学習係 地域活動指導員）

町内全自治公民館を拠点とし、地域のボランティアを発掘し、夏休みを通して各行政区をつないだ「子どもの発達支援」、「家庭支援」、「ふるさと体験」、「異世代交流」などを目的とした総合的な地域活性化事業である。日程によって主催事業の展開場所を分散し、各自治公民館の負担を軽減すると同時に夏休みの間は町内どこかで常に何かが行なわれている状態を創造した。教育委員会が呼びかけ、自治公民館が対応し、子ども会が協力するという仕組みを基本としている。

3 地域が育てる体験的郷土教育プログラムの意義と方法—南九州市7つの子ども教室— 12:00~12:30

ふしおか
喜岡 達也（鹿児島県南九州市教育委員会社会教育課 社会教育係長）

平成14年に設立した学校週5日制対応の「土曜塾」が起点。市内に7つの教室がある。子どもの居場所を確保し、地域の大人の参画を得て、放課後や週末における学習活動、読書活動、文化活動、スポーツ活動、自然体験などを年間を通して実施し、郷土を担う心豊かなたくましい子どもの育成を目標としている。プログラムの展開には老人会、消防団、PTA、青年団などの協力を得て、各地域に実施を委託している。活動の基本視点は、「地域の良さ」を学ぶ、「交流」を重視する、「地域貢献」をプログラムに含めることである。それぞれの「子ども教室」を通して各世代のリーダーが育ち、地域の活性化を実感している。